

公民科学習指導案

単元名「法や規範の意義及び役割（B項目～主として法に関わる事項～）」

令和5年10月 2学年 指導者 安田 直剛

I 単元の構想

1 単元観

本単元は「公共」の大項目B「自立した主体としてよりよい社会の形成に参画する私たち」に位置しており、このB項目では、法・政治・経済に関する13の事柄や課題について主題を設定し、これを追究したり解決したりする学習に取り組むことが示されている。13の事柄のうち、本単元として設定した「法や規範の意義及び役割」では、法や規範に基づいて各人の意見や利害を公平・公正に調整し、個人や社会の紛争を調停、解決することなどを通して権利や自由が保障、実現され、社会の秩序が形成、維持されていくことについて理解できるようにすることを主なねらいとしている。そのため、意見や利害の対立を調整するルールづくりを体験的に行う学習や、紛争や課題の背景にどのような意見や利害の対立があり、どのようにすればそれらの対立を公平・公正に調整することができるのかを考察する学習に重点を置いた単元を構想したい。また、A項目で「習得」した内容を「活用」できる能力に育てることがB項目の役割であり、ここでの取り組みがC項目の「探究」学習への取り組みを左右することから、単元全体を通してA項目で習得した内容を活用する場面を意識的に作り出していきたい。

2 研究との関わり

本研究は「現実の諸課題に対して当事者意識をもって、主体的に解決しようとする生徒の育成」を主題とし、現実の諸課題をテーマにしたパフォーマンス課題の設定と、スモールステップ方式による生徒主体の協働学習の2つを重点的な手立てとして実施している。具体的には、教師主体の一斉教授型の授業から、生徒主体の課題解決型の授業形態への転換を念頭に置き、これまでの学習内容を活用して生徒たちが協働しながら自分たちで現実の諸課題の解決策や望ましい社会の在り方を構想する経験を積み重ねていくことで、生徒の社会課題に対する当事者意識と、解決への主体性を高めることをねらいとしている。本単元は、学習指導要領上でも、協働して主題を追究する活動を主な学習形態にすることとされており、研究の手立てを最も生かしやすい分野である。

3 単元の目標及び生徒の実態

	目 標	児童（生徒）の実態
知識及び技能	<ul style="list-style-type: none">法や規範の意義及び役割に関わる現実社会の事柄や課題を基に、憲法の下、適正な手続きに則り、法や規範に基づいて各人の意見や利害を公平・公正に調整し、個人や社会の紛争を調停、解決することなどを通して、権利や自由が保障、実現され、社会の秩序が形成、維持されていくことについて理解する。現実社会の諸課題に関わる諸資料から、自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付ける。	<ul style="list-style-type: none">法や規範などのルールそのものに対する知識はあるが、その意義や役割を考察したり、どのようなルールが望ましいのかを構想したりする意識をもっている生徒が少ない。
思考力、判断力、表現力等	<ul style="list-style-type: none">幸福・正義・公正などに着目して、法、政治及び経済などの側面を関連させ、自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現する。	<ul style="list-style-type: none">現実社会の諸課題への解決方法を考察する機会が少なく、物事を多面的・多角的に考察することに慣れていない。

<p>学びに向かう力、人間性等</p>	<p>・よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする。</p>	<p>・学習を通して得た知識を、現実の諸課題の解決のために活用しようとする意欲をもつ生徒が少ない。</p>
---------------------	--	---

4 評価規準

<p>知識・技能</p>	<p>・法や規範の意義及び役割に関わる現実社会の事柄や課題を基に、憲法の下、適正な手続きに則り、法や規範に基づいて各人の意見や利害を公平・公正に調整し、個人や社会の紛争を調停、解決することなどを通して、権利や自由が保障、実現され、社会の秩序が形成、維持されていくことについて理解している。</p> <p>・現実社会の諸課題に関わる諸資料から、自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付けている。</p>
<p>思考・判断・表現</p>	<p>・幸福・正義・公正などに着目して、法、政治及び経済などの側面を関連させ、自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現している。</p>
<p>主体的に学習に取り組む態度</p>	<p>・よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。</p>

5 指導及び評価、ICT活用の計画（全6時間：本時第5時）

過程	時間	<p>■ねらい □学習活動 ★ICT活用に関する事項</p>	知	思	態	<p>◆評価項目<方法（観点）> ○指導に生かす評価 ●評定に用いる評価</p>
つかむ	1	<p>■単元の学習内容を把握し、課題の解決に向けた見通しをもつ。</p> <p>□単元の課題に対する現時点での回答と、課題解決のための見通し（疑問をもったこと・解決に必要な情報・手掛かりとなる既存の知識等）をまとめる。（★）</p>			○	<p>◆単元を貫く問いを把握し、現時点での自分なりの考えや意見を述べ、解決への見通しを立てることができている。</p> <p><ポートフォリオ（主）></p>
<p>[单元・題材の学習課題・問い等]</p> <p>多様性を認め合う社会を実現するには、どのような法律やルールを作る必要があるのだろうか？</p>						
追究する	2	<p>■現実社会の諸課題を題材にしたルール作りを体験することで、法の一般性、明確性など、公正なルールとして備えるべき特質や法がもつ様々な機能について理解できるようにする。</p> <p>□チケットの高額転売を規制するルールづくりを通して、法がもつ様々な機能を理解する。</p>	○	○		<p>◆法がもつ様々な機能を理解し、幸福・正義・公正などに着目して、高額転売を規制する法律の妥当性とその修正について多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p><ワークシート（知）> <ワークシート（思）></p>
	3 4	<p>■日本国憲法が定める「平等権」や「個人の尊重」の意義と、保障の在り方について、具体的な状況に即して考察できる力を身に付ける。</p> <p>□同性婚を巡る憲法判断の事例を通して、平等権の保障の在り方について考察する。</p>	○	○		<p>◆「両性の本質的平等」や「人間の尊厳」・「個人の尊重」など、各事例において考えるべき視点を正しく把握した上で、自らの意見を表現している。</p> <p><ワークシート（知）> <ワークシート（思）></p>

		<p>□ドイツ航空法を事例に、「人間の尊厳」や「個人の尊重」など公共的な空間における基本的原理や憲法の基本的原則の視点から望ましい法やルールの在り方について考察する。</p>			
まとめ	5 本時	<p>■社会的事象を切り口に、「多様性」の実現を意図する制度に対して、どのような意見の対立があり、どのようにすればそれらの対立を公平・公正に調整することができるのかを考察する視点を身に付けるとともに、現実社会の諸課題を主体的に解決する態度を養う。</p> <p>□入学試験の女性枠設置に対する議論から、多様性を実現する公正な制度の在り方について構想し、多様性を認め合う社会作りに必要な事柄を考察する。</p>	●	●	<p>◆幸福・正義・公正などに着目して、多様性を実現するための公正な制度の在り方を多面的・多角的に考察し、望ましい解決策について主体的に述べようとしている。</p> <p>＜ワークシート（思）＞ ＜ワークシート（主）＞</p>
<p>[本時のめあて・課題・見通し等]</p> <p>「多様性を実現する公正な入試制度の在り方について提言しよう！」</p>					
	6	<p>■単元の学習内容を振り返り、単元を貫く問いに対する回答を作成することで、法やルールが備えるべき特質や、法の内容を吟味して、よりよいものにしていこうとする努力が大切であることを理解できるようにする。</p> <p>□単元の学習内容を元に、多様性を認め合う社会を実現するにはどのような法律やルールを作る必要があるのか、自身の考えをまとめる。(★)</p>	●	●	<p>◆多様性を認め合う社会を作るためには、偏見や思い込みなどの人々が持つ価値観や先入観を意識する必要があることを踏まえ、法やルールを定める際に考慮すべき事柄について、「公正」や「人間の尊厳」、「個人の尊重」などの視点から、多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>＜ポートフォリオ（思）＞</p> <p>◆単元を貫く問いに対する、自身の意見の変容を認識し、その変容に有効であった学習の手立てと、単元を通して学んだ学習内容から、今後の生活に生かせる事柄を述べようとしている。</p> <p>＜ポートフォリオ（主）＞</p>

II 第5時の学習

1 ねらい

現代社会に求められている「多様性」の実現に際して、どのような意見の対立があり、どのようにすればそれらの対立を公平・公正に調整することができるのかを考察し、望ましい解決策の在り方について構想する活動を通して、現実の諸課題に対する当事者意識を高め、課題解決に向けて主体的に取り組む態度を養う

2 展開

<p>主な学習活動 予想される児童(生徒)の反応〔S〕 ★ICT活用に関する事項</p>	<p>◎研究上の手立て ○指導上の留意点 ◆評価項目(観点)</p>
<p>1 本時の学習課題を把握する。(導入①5分) S:今日はグループでの協働学習で課題に取り組むのだな。</p>	<p>◎生徒主体の学習となるよう、グループでの協働学習の形態をとり、今までの学習内容を活用することでクリアできる段階的なステップを踏み、ゴールである課題の解決策の構想まで辿り着かせることで、主体的に課題解決に取り組む態度を養う。 ○本時の課題は、記録に残す評価であることを生徒に認識させる。</p>
<p><くめあて・課題・見通し等> 「多様性を実現するための、公正な制度の在り方を提言せよ！」</p>	
<p>2 Step 1 課題への共感と学習意欲の喚起 職業と性別に対する思い込みを利用した問題に取り組む。(導入②5分) S:無意識のうちに自分たちの中にも思い込みがあることに驚いた。 S:今回の社会課題は、こうした自分たちの思い込みや偏見が関係しているのだな。</p>	<p>○課題解決に向けた最初のステップとして、無意識の偏見や思い込みが生徒たちの中にもあることを実感させることで、今回の社会的な課題と自分自身の繋がりを認識し、課題の自分事化を促す。</p>
<p>3 Step 2 課題の自分事化と既習事項の活用 入学試験に女性枠を取り入れた大学のニュース記事を取り上げ、この制度の問題点を考察するとともに、制度に対する自身の意見を持つ。(展開①10分) S:もし、自分が志望する大学が女性枠を取り入れたらどうだろう?男性である自分にとっては他人事ではない大きな問題だな。 S:入試では能力を重視すべきであって、性別を理由に女子学生を優先して合格させる制度は「公正性」に欠けているような気がするな。 S:本来は合格する能力があるのに、女性枠によって不合格になる男子学生が出る可能性がある制度は公正とは言えないのではないかな。 S:「機会の公正」と「結果の公正」の2つのうち、この制度は「結果の公正」を重視している制度といえるのではないかな。</p>	<p>◎現実の社会的事象を題材とし、その解決策について考察・構想させることで、社会的事象を自分事として捉え、社会の一員としての当事者意識をもたせる。 ○本時の課題解決に向けて、まずは「公正」の視点から問題を考察するよう意識させる。</p>
<p>4 Step 3 当事者と問題の背景理解 問題に直面している当事者である大学側の背景理解として、理系学部の女子学生の割合が低い原因を「性差」と「環境」の2つに整理し、2つの資料を関連付けて読み取ることから、どちらの影響によるものなのかを考察する。(展開②7分)</p>	<p>○学習到達度調査の結果を示した資料と、ジェンダーギャップ指数の2つの資料を関連づけて考察させることで、男女の比率の差をもたらしているのが「性差」に起因するものなのか、「環境」に起因するものなのか捉えさせる。</p>

<p>S : 男性の方が点数の高い国が多いからやっぱり元々の生物学的な性差ではないかな。</p> <p>S : でも、女性の方が点数の高い国もあるな。そうした国はどういった国なのかな。</p> <p>S : ジェンダーギャップ指数が高い国は女性の点数も高いな。つまり男女の学力差は、環境による影響を受けているのではないかな。</p>	
<p>5 Step4 課題を多面的・多角的に捉える これまで用いてきた「公正」以外の視点から、今回の問題を捉えることができないかを考察する。(展開③8分)</p> <p>S : 先哲であるベンサム功利主義の考え方を活用すると、今回の女性枠は社会全体の幸福に繋がる制度と言えるかもしれないな。</p> <p>S : 正義論を唱えたロールズだったら、今回の制度にどのように捉えるだろうか。</p> <p>S : 通時や共時といった視点からも捉えることができるのではないかな。</p>	<p>○公共のA項目で習得した内容を振り返らせ、今回の課題解決に活用することを促す。</p> <p>○今回の制度の背景を理解させるために、過去からの歴史的な経緯を踏まえた視点から考察する必要があることを確認する。</p>
<p>6 Goal 課題解決策を構想する Step1～4までの内容を踏まえて、多様性を実現するための公正な入試制度の在り方を構想し他者と意見交流を行う。(展開④10分)</p> <p>S : 女性枠のような積極的な是正策がなければ、社会の意識は変わらないし、多様性を受け入れられる社会は実現しないと思うな。</p> <p>S : 女子の割合が半分になるまでの一定期間だけ女性枠を設ける方法が良いのではないかな。</p> <p>S : 女性枠を設けることは逆差別を生んでしまうので、公正なルールとは言えない。今まで通り性別を問わずに定員を設けて、奨学金などの別の手段で女性を増やすため環境を整備していく方法が良いのではないかな。</p>	<p>◎他者と協働して、望ましい社会の在り方について「選択・判断」や「考察・構想」する機会を設けることで、現実の諸課題に対する当事者意識と課題解決への主体性を高める。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>◆評価項目 多様性を実現するための公正な制度の在り方を「幸福・正義・公正」の視点から考察し、望ましい解決策について、他者の意見を取り入れて主体的に述べようとしている。</p> <p style="text-align: right;"><ワークシート (思) > <ワークシート (主) ></p> </div>
<p>7 まとめ 課題解決策の内容を一般化する 入試制度という具体的な事例を通して学んだことを一般化して、法的主体として「多様性」や「公正」を確保するために考慮すべき事柄を考える。(終末5分)</p> <p>S : 多様性を認め合う社会にするためには、機会の公正と結果の公正の両方を考えたルールを作って行かないといけないな。</p> <p>S : 多様性を実現するためには、思い込みや偏見が存在していないか、過去からの経緯を踏まえたルールになっているかななどを考慮しないとイケないな。</p>	